

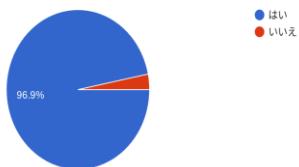
勉強に友達は必要か

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

本校(*1)では、コミュニケーション英語を初めとした様々な授業においてペアワーク、グループワークを活発に行っている。そこに着目した私達は友人との学習効果について探求を行なった。調査をするにあたって、私達はコミュ英の授業でのペアワーク活動の効果についてフォーカスした。調査方法として、本校61回生(*2)にアンケートを、我々の英語の授業を担当してくださった先生方にインタビューを行なった。

①ペアワークは必要か?
64件の回答



1はじめに

私達が探究を始めたのは、寝ない授業を作りたいというのがきっかけであった。まず授業に集中するための方法や学習環境について調査した。そこで私達は学習塾と学校とでは学習環境に大きな違いがあることに気がついた。その違いとは友達がいるかないかである。たしかに友達と塾に通っている人もいるかもしれないが、基本的に塾では講師の話を聞いて問題を解くという受動的な授業が行われていると考えた。それに対して学校、特に本校では授業内でペアワークやグループワークなどの友達と知識を共有し教え合う能動的な授業形態を展開することが多いことに気付いた。これらの、塾では行われていない学習方法はどのような効果をもたらすのかが気になり私達は探究を進めた。

○事前調査結果

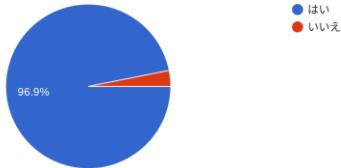
2先行研究と課題

まず私たちは研究対象の教科としてコミュ英の授業に焦点を当てた。この理由は、英語は1つの言語でありこれから先の世界で重視されるスキルであるからである。次に私達は「友達がいると学習意欲が向上する」という仮説を立てた。

この仮説を検証するため、先行研究を調査した。そこでは友人同士での学習活動が、自律的な動機づけ（自分の意思や興味から生まれる学習意欲）が学習の質や継続性に大きな影響を与えることが示されていた。調査を通して私達は英語のペア・グループワークでも同じことが言えるのかが気になり、私達自身も検証してみたいと考えた。

検証をする前に事前調査として、本校61回生がペア・グループワークに対してどのような考え方を持っているのかを知るためアンケートを行なった。

⑤グループワークは必要だと思いますか？
64件の回答



3 調査

事前調査から多くの生徒がペア・グループワークに対して必要性を感じていることが分かった。その理由として「自分の意見を相手に伝わるように英語でまとめることで英会話の練習になり学びも深まる」という趣旨のものが多く挙げられていた。それに対して必要ではないと回答した生徒は、「相手も自分も質問に対して答えられなかった時に気まずい」「英語が話せないと主体的に参加出来ない」という理由を挙げていた。

この結果を踏まえ、ペアワークは相手によって学びに偏りが出てしまうのではないかと考えた。そこで「友達は必要か」というテーマにあっているペアワークだけを調査対象に絞り、仮説の見直しを行った。その仮説は「英語が苦手な人でも、授業中以前よりも楽しく安心してペアワークに取り組めるようになれば授業に主体的に取り組める」というものである。

楽しく安心して行えるペアワークはどのようなものなのかを調べるために、61回生を担当する英語科の先生と61回生にそれぞれ、コミュ英の授業に関するインタビューとアンケート調査を行った。

○質問内容

①61回生へのアンケート

- 1) コミュニケーション英語の授業は満足するものですか。
- 2) どのようにすればより満足できると思いますか。
- 3) コミュニケーション英語の授業のペア

ワークは楽しいですか。

- 4) どんなときにそう思いますか。
- 5) コミュニケーション授業に主体的に取り組めていますか。
- 6) どんなときにそう思いますか。

②英語科の先生へのインタビュー

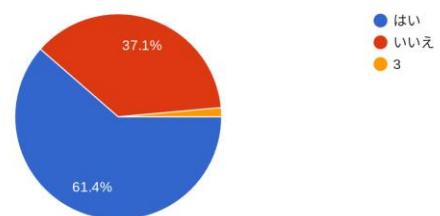
- 1) ペアワークの目的は。
- 2) ペアワークの相手は大切だと思うか。
- 3) ペアワークがうまく進んでいないペアに対してどう接するか。（気まずそうにしているペアを見つけたときの対応）

○調査結果

①61回生へのアンケート

1)

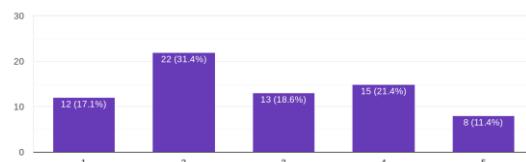
コミュ英の授業は満足するものですか？
70件の回答



2) (一部抜粋)

- ・ペアワークなどコミュニケーションを取る機会を増やす
 - ・書くよりも話す
- 3)

コミュ英のペアワークは楽しいですか？
70件の回答



(1 : 楽しい→5 : 楽しくない)

4) (一部抜粋)

- ・相手と英語で意思疎通ができた時。
(楽しいと回答)
 - ・会話が止まってしまう時。うまく伝えられない時。
(楽しくないと回答)
- 5)



(1 : 取り組めている
←→ 5 : 取り組めていない)
6) (一部抜粋)

- ペアワークで積極的に発言するとき
 - 苦手でも英語を使って話すとき
- (どちらとも取り組めていると回答)

②英語科の先生へのインタビュー(一部抜粋)

- 会話の練習が主な目的
 - 言語化することで理解できるようになる。
- 大切である
 - 様々な人と様々な機会で話す機会があるため我慢も大切である。
- 話し続けることを促す
 - 先生1人でクラス全員を見ることは不可能

4 結果・考察

アンケート結果から、ペアワークを楽しいと感じている人とともに満足している人、主体的に取り組めている人の割合が過半数を超ていることが分かる。理由としてはペアワークでうまく意思疎通ができた時や会話が続いた時の満足感を感じることが出来るという回答が多く見られた。一方でそうでないと回答

した人からは、ペアワークの会話が途絶えた時や、自分の言いたいことが言えなかつた時に楽しくないと感じるという回答が見られた。インタビュー結果とアンケート結果を比較して私達は、気まずい時に今の先生の対応では乗り越えられていないと考えた。またペアワークの相手は大事だが誰とでもできるようになるというのが大切であるということを知ることができた。

5まとめ

これまでの探究活動を通して、コミュニケーション英語の授業の視点から考えると勉強に友達は必要であると私達は考えた。しかし、このことから一概に学習において友達が必要であるということはできない。学習する教科や単元、環境によって悪影響をもたらす可能性もある。教育職に興味を持つ私にとって、この調査はとても有意義なものであった。将来またこの課題に接する機会があったら、他の要因や効果についても調べたいと思う。

参考文献

- 岡田 涼
「友人との学習活動における自律的な動機づけの役割に関する研究」
- 奥原 俊 伊藤 孝行
「ペア学習におけるペアの繋がりが与える影響と効果」
- 真田 穢人
「小学校における協同学習が学習意欲に及ぼす影響に関する実証的研究」

abstract

Our report explores the effects of studying with friends, focusing on pair work in English classes. Surveys and teacher interviews show that students feel more motivated and satisfied when working with friends, as it reduces stress and encourages communication. Teachers told us the importance of also interacting with various peers. The study concludes that studying with friends is effective for motivation and necessary for studying.

